

1720

09.3.11

2001年度開講科目

## 調査実習概要報告書

1/1

2009年3月6日

科目担当者氏名 (ふりがな) なかにし・とおる/まるやま・まこと 中西徹/丸山真人		科目担当者連絡先(電子メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか 市野川容孝		科目設置機関名 東京大学大学院総合文化研究科
授業科目名 国際社会科学特殊研究Ⅲ	科目認定番号 TOKx-010101-0	受講者数 6名

I. 調査実習に関するコメント		
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、前年度の調査結果をふまえた上で、新たに「教育」「森林」等のグループ分けをおこない、アンケート調査等をおこなった。加えて、「大和町の暮らしと町づくり」について第2回目のアンケート調査を実施した。前年度同様、調査に対する学生のコミットメント度は非常に高く、充実した調査実習がおこなえたと考える。</p>		
II. 調査の企画・設計(デザイン)		
<p>1. 調査のテーマ/領域： 「グローバル化のもとでの地域変容」(新潟県大和町調査)。地域住民の生活構造と意識に関するアンケート調査と補足的インタビュー調査。</p> <p>2. 調査の内容/概要： (1) 教育に関する調査では、町立小学校(計2校)の児童およびその保護者を対象に、学習面・生活面に関する意識を尋ねた。(2) 森林に関する調査では、同小学校の児童の保護者を対象に、学校林の可能性や利用方法等について尋ねた。</p> <p>3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 上記の(1)(2)ともに、町役場より紹介された町立後山小学校の全校児童とその保護者(ともに13名)、同浦佐小学校全学年の1組の児童とその保護者(ともに154名)を対象とした。</p> <p>4. 主な調査項目： (1) 教育に関する調査では、町立小学校(計2校)の児童およびその保護者を対象に、学習面・生活面に関する意識を尋ねた。(2) 森林に関する調査では、同小学校の児童の保護者を対象に、森林の新たな利用形態としての学校林に、どのような可能性があるか等について尋ねた。</p>		
III. データ収集の方法と結果		
<p>5. データ収集(現地調査)の方法： 主にアンケート調査(児童については直接配布・回収、保護者については郵送回収)。</p> <p>6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2001年7月から2002年2月まで。新潟県大和町。計22名(うち本授業履修者は6名)。</p> <p>7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)： (1) については、対象児童計167名全員から質問票を回収し(100%)、その保護者計167名からは106の回答をえた(63%)。(2) については、保護者計167名から101の回答をえた(60%)。</p>		
IV. データ分析の方法と結果		
<p>8. データ分析/解釈の方法： 各質問項目に関する単純集計およびクロス集計。</p> <p>9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)： 詳細は下記報告書を参照されたいが、(1)においては、「総合学習」制度について好意的な意見が9割以上を占める等の結果が、(2)においては、「学校林」について、一般町民よりも、児童の保護者の方が消極的に意見をもっていること等が明らかとなった。</p> <p>10. 報告書刊行の予定と概要： 前年度の調査結果とあわせて、東京大学教養学部関連社会科学研究室『新潟県大和町の暮らしとまちづくりに関する学術調査』(2003年2月、全264頁)として刊行した。</p>		

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
  2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
  3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
  4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。